

2. 全国(春季)大会  
60年5月 大会開催

(4) 昭和60年度予算書

自昭和60年3月1日～至昭和61年2月28日  
(単位：円)

収支	項目	予算額	
収入	前年度からの繰り越し	790,983	〔一般会計から 402,193 全国(春季) 大会から 388,790〕
	本部交付金(年間会費)	228,000	
	〃 (講演会)	18,000	
	利息	15,000	
	合計	1,051,983	
支出	会議費(総会)	75,000	
	運営会議費	34,500	
	研究活動費		
	月例研究会	52,500	
	講演会	35,000	
	通信費	72,000	
	その他	5,000	
全国(春季)大会	388,790		
	合計	662,790	
残高	次年度へ繰り越し	389,193	

(5) 昭和60年度役員

支 部 長 児玉正憲(九州大学)

副支部長 山川典宏(九州産業大学), 野中淳良(九州電力)

支部運営委員 須永照雄(九州大学), 浅野長一郎(九州大学), 古川長太(九州大学), 藤野義一(九州工業大学), 村上周太(九州工業大学), 関 弘之(三菱化成工業), 平川紀夫(新日本製鉄), 白石晃久(黒崎窯業), 徳久太一(西日本新聞社), 永次 広(安川電機製作所), 白石武夫(九州電力), 吉村博之(西日本鉄道)

支部監事 福田晋一郎(西日本鉄道), 阿南信博(西日本新聞社)

会員訃報 堀川映二氏 73才.

6月29日脳溢血のため死去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

追 悼

堀川 映二さんを憶う

三上 操

天衣無縫, 邪気悪意がまったくなく愛すべき, 人に求めず, 人に気をおかせず, 快談好き, そして自由奔放のように見えるが, 抑えるべきところを抑える人, それが堀川さんだった。

彼との出会いは, メモで昭和35年3月18日, 八幡製鉄のクラブで住友金属の藤尾氏(故人), 日本IBMの竹下氏, 八幡の勝井課長, 堀川氏と5人会食にはじまるらしい。この日はお偉方前でコンピュータは企業でペイするかどうかを論じたはずで, まだそんな時代のことである。同年9月に開設された八幡の学卒者教育のOR講座にまねかれ, 堀川さんがお目付役で傍聴していることがよい。おれもしゃべることに自信があるが, 君も相当だね, と。以後20数年にわたる交遊がはじまり折にふれ快談, 快飲を重ねたものである。彼は糖が出てビールを制限されていたが, 守るのははじめだけ, あとは数に入れないのである。

早くから社内でもOR手法を駆使し多くの難問を解いて貢献していることもやがて耳に入ってくる。もちこまれた問題を黙って聞いていて, この種のデータを集めてこいと指示するときはほぼ問題は解けて

いるという。しかし彼が業績をみずから口にするのではない。若い人の世話もよくして, 学位論文作成で手をかしたのも2, 3に止まらないはずである。つき合いは好きだが求めはしない。学会のパーティーのスピーチなど応ぜず, 自分を売り込まず, 栄達には無関心だった。

社内では変人奇人で通り, 多くの逸話, 伝説も残している。早く辞めさせろといった人も知っているが, まったく彼の貢献を知らない話で, ほんとに1人の天才であったと思う。

永年つき合ったが, OR関係以前の経歴などふれたことがなく詳かにしない。しかし八幡製鉄所, つづく九州工大の定年後東亜大在勤中に, 北九州大学院要員への推薦を快諾しその任を果された頃までの交誼は懐かしい。いつかのOR学会九州支部総会の折, 瘦せ方を見て気にしながら, 周囲の人の事情も変り, 情報は杜絶え疎遠になった今日, 学会からの追悼文執筆依頼ではじめて訃音を知ったのは申し訳ない。

ORの先覚, 実践者として高く評価さるべき人物で, 巨星墜つとの感を禁じ得ない。